

地域活性化起業人が語る地域づくりと地域の活性化



地域活性化起業人制度は、三大都市圏に所在する企業等と地方自治体が協定書に基づき、企業等が社員を一定期間（6カ月から3年）地方自治体に派遣し、地域独自の魅力や価値の向上、地域経済の活性化、安心・安全につながる業務など、地方自治体が幅広く取り組む課題に対し、社員の専門的なノウハウや知見を活かしながら即戦力人材として業務に従事することで、地域の活性化を図る取り組みです。

2014年度に制度が始まり（2020年度までは地域おこし企業人、2021年度から内容を刷新）、17の自治体に22名だった派遣者は、2023年度は449の自治体に779名が派遣されています。そのうち、北海道は58の自治体に107名（全体の13.7%で1位）が派遣されており、今後も増加していくことが予想されます。

「開発こうほう」では、2021年から地域づくりや地域活性化に関して、道内自治体のまち・ひと・しごと創生総合戦略や地域で活性化に取り組んでいる団体等の活動内容等を掲載しています。今回、地域活性化起業人の方が取り組み業務を通して見える、地域づくりや地域の活性化への想いや課題、感じていることなどについて語っていただきました。

【参加者】

- (株)まちづくり観光デザインセンター代表
かとう けいこ 氏
- 美唄市経済部経済観光課
楠 徹平 氏
- 釧路市総務部情報システム課DX推進係
松田 光由 氏
- 上川町地域魅力創造課
米田 真依 氏

かとう 今日は道外から「地域活性化起業人」として北海道に来てくださり、地域で活躍されている皆さんの中から、松田さんと米田さん、楠さんにお越しいただきました。まずは自己紹介と今暮らしているまちを選んだ理由を教えてください。

松田 私は、神奈川県出身で、会社はソフトバンクです。前身の日本国際通信(株)に通信インフラエンジニアとして入社し、起業人になる前まではメガバンクに向向して銀行ネットワークの構築支援に従事し、直近は自社に戻り中小企業のDX化の提案支援をしていまし

※本座談会は2024年10月10日に開催いたしました。

た。2023年4月から釧路市に来て、主にデジタルツールを活用した庁内のDX（業務改善）をしています。釧路に来たきっかけは会社からの提案でした。今まで北海道に来たことがなかったので土地勘もなくて、札幌も近いという感覚でいたら、実はすごく遠くて着任してびっくりしました。

かとう ありがとうございます。

楠 私は岡山県出身で、京都の大学を出てANAグループに就職し、キャンペーン事務局運営やANAのノウハウを活かした教育研修事業の立ち上げ、そのホームページ制作などを担当しました。その後、インターネットの制作会社に転職して、20年近くITやインターネットに関わる仕事をしています。現職のアスノシステム(株)では、貸会議室を検索する「会議室.COM」の運営責任者を担当しておりました。企業の会議や研修をテーマとしたビジネスを通じて、近年では、オフサイト（職場外）研修や企業のワーケーションの普及を目的に地方に伺う機会もあり、美唄市とはご縁があって2021年に訪問し、ワーケーションのモニターツアー造成をご一緒するなどを経て、2023年4月から起業人になりました。

かとう ありがとうございます。米田さんお願いします。

米田 私の出身は、四国の香川県です。大学で京都に移り、新卒でパナソニックに入社した後、P&Gでリサーチャーとして、販売戦略や新商品の開発をしていました。4年前に2度目の転職でデザイン会社のグッドパッチに入社しデザインリサーチャーをしています。

上川町に関わるようになったきっかけは、役場職員へのデザイン研修です。出張で上川町に行って、このままもうしばらくいたいなと思い、プライベートで延泊しました。その後、役場の人に「起業人制度」を教えてもらい、2022年10月から起業人になりました。

制度としては、月の半分登庁すればいいのですが、リサーチャーとして住み込んだほうが絶対にいいんですと、会社の理解を得て移住しています。



米田 真依氏

一人の人間として受け入れてくれる嬉しさ

かとう 皆さんはいろんなきっかけで起業人として北海道へいらしたのですが、米田さんのように移住している起業人って稀有かもしれないですね。

米田 このままずっといられたらいいなと思っていたりします。

かとう その理由は、人なのか、地域の雰囲気なのかお聞きしてみたいです。

米田 私は完全に人でした。高校まで育った田舎が閉鎖的な方も多く、正直なところ田舎が苦手だったんです。最初に上川町に来たときもとても不安でした。それが変わったのが、役場職員へのデザイン研修が終わって入った居酒屋での出来事です。外は雨でお客さんが誰もいなくて、店主の方と3時間くらい話をしました。すごく打ち解けられて、よそから来た人を受け入れてくれるまちもあるんだと感じました。帰りは、店主の方が雨の中傘を差して歩いて送ってくれました。社会人になると「どこの会社の人なの？何してるの？」と肩書きから入る質問が多くなりますが、上川では「どこから来て？何しに来たの？」と一人の人間としてみえてくれる。その感じがすごく嬉しかったです。

かとう 最終日に居酒屋さんのドアを開けなければ、今上川にいなかったんですね。楠さん、岡山はそれほど田舎とは思いますが、進学時に都会に出たかった



楠 徹平氏

んですか。

楠 特別岡山を出たい理由はなかったんですけど、結果的に地元の大学に進学する選択肢が当時にはなかったですね。小さいころから飛行機が好きだったので、「都会に出て仕事がしたい」というよりは、航空会社に勤めてみたいという夢はありました。

米田さんのお話は、とても共感しますね。美唄でたまに朝走ったりするんですけど、全然知らないおばあちゃんが「おはよう」って挨拶してくれるんですよ。ランニング中にそんなことは絶対都会ではないですし、一例ですが、すごい人ってあったかいと思う機会が多い気がします。買い物などしていても都会だとコミュニケーションも必要最低限ですが、美唄では、なぜかこちらプラスの会話をしたくなっちゃいますよね。

かとう 松田さんは生まれも育ちも都会の人ですよ。

松田 神奈川出身で今は東京ですけど、私は田舎に住みたかったです。親の実家が山形で毎年のように行って人当たりも優しいので、地方の方がいいなと思っていました。その中でたまたま起業人の機会があって来たという感じなんです。絶対的に人が少ないところがよくて、都心は人で疲れます。

まだまだある隠された北海道の魅力

かとう 地方暮らしで困ったことがあったら教えてほしいのですが。

米田 上川町は、旭川空港から車で1時間かかり、公共交通機関だともっと時間がかかるので、気軽に来てと言いつらい側面があります。ただ、友達はそれでもたくさん遊びに来て、楽しんで帰ってくれています。

楠 美唄がある空知地域は道内でも非常に雪が多いところとして有名です。朝起きたら車に雪が40~50cm積もっていて、それを落とすところから生活が始まります。自分もひと冬過ごしましたが、雪と一緒に生活するのは大変なんだと思いました。

かとう そうですね。雪があるから水不足の心配はしないけれど、災害級の雪が降りますからね。

楠 そうですね、ホワイトアウトを初めて経験したんですけど、本当に1m先が見えず、何もできなくなるんだと身をもって感じました。

かとう ドアが開けられないぐらい雪が降りますよね。釧路は雪が少ないですが、冬を越えていかがですか。

松田 釧路は比較的雪が少ないので生活はしやすいですが、また-20℃の世界を味わわなければいけないのかと思っています。他に東京と違ってスーパーの数が少ないです。1社系列のスーパーが多く価格競争の原理が働かず物価が高く感じます。でも海産物は安いと思います。あと自然が多くて楽しめるのがいいところです。

楠 去年、釧路湿原に行きました。夕方、釧路港近くで世界3大夕日を見られてすごく綺麗でした。ちなみに、美唄も夕日が綺麗で負けていないです（笑）。都会に比べて北海道は高い建物が少なく、遮るものがないので空の量が多いと感じますよね。

松田 釧路湿原に気球を上げたらいいと思うんです。湿原には見わたせる高い山がないんですよね。観光ヘリや気球で上から見る方が、釧路湿原の雄大な景色が見られるのでいいと思うんです。観光用の映像やポスターも上からの写真が多いですよ。展望台で斜め横

から見ても湿原の蛇行してる川があんまり見えないんです。

かとう それすごくいい提案ですよ。

松田 摩周湖や弟子屈、屈斜路湖の方面が見えるので案外いいんじゃないかなと思います。十勝は広大な景色やパッチワークの畑が見られるんですが、釧路は違った見方で国立公園を見られると思うんです。

かとう 国立公園が2つもあるのって日本でも珍しいですよ。集積地ですからね。美幌峠から見た屈斜路湖や摩周湖のあのカルデラのパノラマもちょっとない絶景です。

松田 はじめて釧路に来たときに行きましたが、あそこは今でも一番好きなおところですよ。

かとう 私は首都圏や関西圏の友達に女満別空港で降りてねと言います。そうすると美幌峠を通るので、ほとんどの人が感動して動きたくなくなるんですよ。だから上から見てほしいという意味がわかります。松田さんは先日大雪山に行かれたんですよね。

松田 黒岳と旭岳を登ってきましたが、今までで一番よかったです。今までは近くの雄阿寒岳や摩周岳、斜里岳を登りましたが、秋の黒岳や旭岳は景色がいいですね。東京の高尾山は登山者が多くて、人の背中を見ながら歩いている感じです。こちらでは、人が少ないので景色を見ながら気分よく歩けます。

かとう 意外と北海道の人が黒岳とか旭岳に登っていません。利尻・礼文へ向かうフェリーでも、関西弁が飛び交っていて。北海道の人が北の大地の隅々まで動いていないと感じ残念です。

楠 私も今夏黒岳に行ったのですが、ロープウェイとリフトで7合目まで簡単に行けて、有料ですがガイドさんが付いてくれて、自然や動植物を案内してもらいながら登山することができて、道も険しくなくて小学校低学年の子どもでも気軽にトレッキングできるんです。そのことを美幌の人に話したら、「そんなことができるんですか？」って、逆に聞かれました。観光のピークは紅葉時期だと思いますが、人も多くなくてとても



松田 光由氏

おすすめです。

かとう 山が近くにあるからわざわざ行こうと思わないのかな。その傾向はありますね。

楠 そうかもしれないですね。私も大学時代に4年間京都に住んでいましたが、神社仏閣巡りを全くしなかったんです。毎日二条城の前を通っていたんですけど、一度も入ったことないです(笑)。北海道の人にとっては、この大自然は日常ですし、いつでも行けるし、今わざわざ行こうってならないかもしれませんね。宣伝にはなりますが、美幌にも北海道の四季を感じられる廃校を利活用した素敵なお彫刻美術館「アルテピアッツァ美幌」があるんですが、夏は緑もきれいで、秋の紅葉も素晴らしいですし、冬場の雪に囲まれたライトアップも幻想的でとてもおすすめです。入館料無料ですので、ぜひお越しいただきたいです。併設カフェで美味しいコーヒーも飲めますよ。

かとう そう屋外でね、素晴らしい空間があるんですけど行ったことがない人が多いですね。そういうのを掘り起こしていくとまだまだあるんです。隠したいわけではないんですがアピール力が弱いのかなと思っています。

楠 情報発信はたくさんしていると思いますが、良い意味でおしとやかというか、例えばインフルエンサーなんかを使ってSNSでバスらせるようなやり方ではな



かとう けいこ 氏

いのがまた良いところだったりしますよね。

出会えない人に会えることが貴重な価値

かとう 上川町に住んでいて、もっと知ってもらいたいか、もっとプロモーションした方がいいのにということはありますか？

米田 楠さんもワーケーションをされていますが、私が所属するグッドパッチでも取り組んでいます。上川町は約3,200人のまちですが、最近起業や新しい取り組みをする人も増えています。ただお金を稼ぐよりもやりたいことを見つけて、それを実現して生活する生き方をしている人たちが多いです。そういう人に触れることで学べるのがすごくあると思うのです。例えば三重県の酒蔵を上川に持ってきて日本酒を作っている方や、仲間と一緒にマウンテンバイクのコースを作っている役場職員もいます。都会だと出会えない人に会える経験こそが、すごい価値だと思うんです。1週間くらい滞在して、こうした経験ができるワーケーションをより多くの人に体験してほしいなと思っています。

楠 なかなか都会では出会えないような方に会えるのもワーケーションの醍醐味ですよ。最近企業の人材育成で「越境学習」というキーワードをよく耳にします。先行き不透明な時代で、今までの予定調和や固定

概念では企業としての成長がなかなか見込めないという中で、オンサイト（職場）を離れてオフサイトに行くと、そこでの“他日常”に触れることで新しい発見や気付きを得ようとするもので、受け入れ側としては脱パッケージ型のワーケーション（エデュケーション（教育）やコミュニケーション（交流））にニーズがあると思っています。美唄でもそういうワーケーションをしたいと今年度トライアルに取り組んでいます。北海道にはそんな企業ニーズにマッチしたコンテンツがたくさんあると思います。

かとう 私もそれと同じことを4年前から登別市でやっていて、地元の頑張っている人と都会の若手から中堅の企業人をどう出会わせるかとか、4泊5日の合宿型でも短いと思っていたので1週間というのは賛成です。

他の起業人や協力隊との接点について

かとう 皆さんは企業から自治体に派遣されていますが、地域おこし協力隊との接点はあるのでしょうか。

米田 はい。一緒にさまざまな取り組みをしています。その一つで、上川高校の生徒に高校の魅力を伝えるポスターを作ってもらって探求学習をしました。上川の地域おこし協力隊は、クリエイティブプロデューサーやアカデミックプロデューサーなど、分野がわかれているのですが、この探求学習はアカデミックプロデューサーが企画し、クリエイティブプロデューサーのフォトグラファーが写真の撮り方を、私がサービスデザイン的な思考で「誰に対して、何を伝えて、どういう気持ちになってほしいのか」というコンセプトづくりを、雑誌のディレクションをしている起業人が「ポスターとして伝える方法」をそれぞれ生徒に伝え、ポスターを完成させました。そのほかには、上川町での暮らしにワクワクする人を増やしたいという思いから「2050年の上川町の明るい未来を描くプロジェクト」を立ち上げ、まちの人に小説を書いてもらう取り組みをしています。そのプロジェクトにも協力隊の人に参加して

もらうなど、お互いの企画に参加しながら協力し合っています。

かとう 起業人や協力隊は他にもいるんですか。

米田 副業型起業人も含めて15人ぐらいです。協力隊を卒業しても上川に残っている人もいます。

かとう 美唄は起業人と協力隊が多いと有名ですが、上川も人口の割に多いんですね。

楠 美唄は道内でも早く起業人を入れていましたが、副業型がそんなに来るのは、上川に魅力があるということなんですね。

米田 そうですね。企業ともたくさん連携協定を結んでいます。何年前かに役場職員が町長に直談判して東京事務所を作り、そこを起点に企業や新しい人をどんどん連れて来てくれています。

かとう 私が上川町が企業派遣の移住者で活性化していると知ったのは4年ほど前です。それが、米田さんはじめこういう形になっていたんですね。

楠 美唄市には現在、起業人7名、協力隊も約25名が活動していますが、メンバーそれぞれが自分のミッションに取り組んでいるので、定期的に一堂に顔を合わせたりする機会はあまり多くないかもしれません。上川町のクリエイティブプロデューサーとアカデミックプロデューサーのような自分のミッションがまちの活性化のどこにどうつながっているかみたいな見せ方は、とてもおもしろいですね。

松田 私は庁舎内にいるので、起業人や協力隊の人数を把握していないのですが、デジタル・ディバイド^{*1}対策として、高齢者が市役所に来なくてもスマホで申請ができるよう、スマホの使い方を教育、アドバイスする取り組みを始めており、地域おこし協力隊の方に10月から来てもらっています。釧路は範囲が広いので、行政センター等を活用し、市内を回ってもらうことになっています。

また、民間の取り組みになりますが、去年、デジラポというデジタルをテーマとしたコミュニティ施設が作られました。釧路市と地域の企業などの協力で市役

所の前のビルにできました。そこでは、ドローンや3Dプリンターなど最新のデジタルツールを置いて、子どもたちに無料で使ってもらっています。社会人も使えるコワーキングスペースもあります。小学生から高校生ぐらいまでの子どもたちが放課後に来てデジタルに触れられて遊べるというのは、とてもいいことだと思うんです。

場所ありきではなく、人ありきの場所選び

楠 美唄市では、2023年スタートした「未来クライム」という人材育成プロジェクトがあって、高校生以上を対象としたWEBプログラミングスクールを行っていますが、2024年度は主に小学生を対象にした、デジタル体験施設も立ち上がりました。コアびばいという商業施設にあって、3Dプリンターやレーザーカッターを置いています。eスポーツやVRなども体験可能で、そこから将来プログラミングなどより高度なことに興味を持ってもらえたらと思っています。「未来クライム」は、これからのDX推進を担える人材を地域で輩出して、最終的には市内のDXを支える地産地消のかたちが作っていかれたらと思っています。地域の子どもたちには、デジタルにまず興味を持ってもらうところが出発点となりますが、オープンして約半年ですが、放課後にたくさんの児童が集まる場所になりつつあって、今までは都会に行かないと出会えなかったような経験も地方にいながらできる場所を、これからもより充実させていきたいと思っています。

米田 上川町も「大雪かみかわ ヌクモ」という子どもたちにプログラミング教育をしている施設があります。協力隊の卒業生で、たけっちゃんという人が会社を立ち上げ、施設の館長をしています。そこはまちから遠いので親御さんが送迎するんですが、協力隊が運営するカフェが併設されているので親御さんは待ちながら利用しています。

楠 コアびばいにも協力隊がやってるカフェがあるので、親御さんはお茶を飲んだり、スーパーで買い物を

*1 デジタル・ディバイド

パソコン・インターネットなどの情報技術を使いこなせる人と使いこなせない人との間に生じるさまざまな格差。

したりされている方もいらっしゃると思いますね。

松田 デジラポは市役所の前の一等地にあるんですが、スーパーも近くにないため親御さんが待っている施設がないんです。釧路だとイオンモールの一角を借りてできると良かったと思います。

楠 空きテナント対策などもあってか先に箱を作っちゃうケースもありますが、本来はコアになる子どもたちや地域の人が集まりやすい場所が、どういうところなのかを見極めるのが先なんでしょうね。

これから起業人を活用する自治体へのヒント

かとう この地域活性化起業人制度は、北海道内全ての自治体が活用してないと思うんです。これから制度を検討している自治体の人に何かヒントがあれば教えてください。

楠 そうですかね。ストレートに困っていることや課題を言ってもらえれば、私たちも動きやすい気がします。そして課題に対して「こうした方がいいですよ」ではなくて「自分これします、これやります」と言い切れる実行力が備わった方がいいでしょう。

かとう そうですね。本当に困っていることを一緒に解決してくれませんかがいいですね。

米田 私は誰にでも来てもらうのではなく、自分たちのまちや価値観に合うかを面接した方がいいと思います。自分の利益よりもまちのためになることを実践できる人に来てもらえるように話した方がいいと思うからです。また、最初に他の起業人や協力隊の人と会って情報交換ができる場を役場の方が作るべきだと思います。

かとう とても具体的な意見をありがとうございます。松田さんはどうですか？

松田 私の配属は情報システム課ということで、求められた役割は、庁内のDXですが自動運転や人流データの活用など、庁外のDX（地域課題解決）を中心にプロジェクトの提案も行っていました。釧路市は財

政的には非常に厳しいこともあり、残念ながらうまく進めていくことができませんでした。これから制度活用を検討される自治体には、求める目的と起業人のスキルややりたいことのすり合わせは行った方がいいと思います。

かとう もったいないですね。モチベーションを維持するのが厳しいですね。

松田 釧路市はやりたいこと、やらなければならないこともたくさんあり各課の担当もモチベーションは高いのでポテンシャルはあると思っています。私の会社が持っているソリューション*2は数百はありますが、自社のソリューションに関わらず知見からの提案もできるとしており、もったいないです。そういう意味では、美唄や上川町は羨ましいですね。

かとう そうですね。ちょっと温度差がありますね。

これからのビジョンについて

かとう 残りの任期やその後（未来）について考えていることを教えてください。

楠 2023年4月から起業人になって、ちょうど半分になります。（企業向け）ワーケーションをフックにした関係人口の創出とデジタルを活用した地域活性化に取り組んでいますが、少しでも美唄のことを市外・道外の方に知っていただき関係人口となっていただけるような取り組みを引き続き続けていくこと、具体的には企業勤めをされている方を対象とした美唄の地域課題解決をテーマとしたアイデアソンの開催や、未来クライムの講座の拡充などに取り組んでいきます。今夏は親子ワーケーションなども行いましたが、第二のふるさと作りにも寄与していて、しっかり関係人口できている手ごたえもありましたので、来年以降も継続できるように活動していきたいと思います。

かとう ありがとうございます。

松田 今、釧路市で生成AI*3の活用を検討しています。市民からの電話問い合わせ対応が多いので、職員の業務負担を少しでも減らすために、市役所が作成し

*2 ソリューション

業務上の問題や課題を解決するための方法。

*3 生成AI

コンピュータが学習したデータを元に、新しいデータや情報をアウトプットする技術。

た文書やマニュアル等を生成AIに学習させて応答することを検討するものです。将来的に、自動的に生成AIが回答できれば職員の余力も生み出せますし、市民サービスの向上にもつながります。その下地作りを継続していきますし、それ以外のソリューションも取り組んでいこうと思っています。

かとう はい、ありがとうございました。

米田 上川町は総務省が取り組んでいる「自治体フロントヤード改革^{*4}」に選ばれていて、まちの人たちが訪れて時間を過ごしてくれるような役場作りをしています。例えば、役場の総合窓口をAI化し、3Dで映し出された人物映像が案内をするツールを導入しようとしていて、その人物を西木町長にするそうです。私は、そういったツールも導入しながら、町長やまちの人たちとの対話をもっと増やす仕組み作りに取り組んでいます。

もう一つは、「2050年の上川町でのワクワクする暮らし」がテーマの小説作りです。第1期として2024年春からプロジェクトを行い、8人で書き終えました。それを2期、3期と続けて、最終的には町民みんなに書いてもらえたら素敵だなと思って取り組んでいます。引き続き、ワーケーションにも取り組む予定です。

個人としては、旅行会社を立ち上げたいと思っています。上川町は友達や知り合いがいなくてなかなか来るきっかけがないまちですが、一度でも訪れると好きになります。まずは「私の友達」として旅行に来てもらい、そして上川の人たちに会ってもらえれば、次からは個人的に上川へ来てくれると思うんです。そんな旅行会社を作りたいなと思っています。

かとう 明るい未来ですね。ありがとうございました。

最後に一言。本制度は派遣元の企業にとって「新しい形の社会貢献」ができ、地域に入ることによって社員のスキルアップが図れ、基礎自治体とのパイプが作れる…いいことづくめにも見えます。受け入れ側は起業者が短期間で結果を出しやすいように、例えば所属を首長直轄のポジションにする、複数の係との横断的

な仕事がしやすいようにする。庁内の若手と交流を定期的にするなどの体制作りを行ってほしいですね。

今日は皆さんありがとうございました。

プロフィール（五十音順）

かとう けいこ

1963年北海道足寄町生まれ。北海道大学大学院農学研究院共生基盤学専攻(博士後期課程)単位取得退学。道新スポーツ「花新聞ほっかいどう」編集長、(一社)シーニックバイウエイ支援センター事務局長を経て、2011年に(株)まちづくり観光デザインセンターを立ち上げる。小紙2019年7月号から、北海道に移住して、新たな取り組みを実践し、輝く人を紹介しているインタビュー「飛翔のレシピ」を担当。道内外の地域活性化や観光のコンサルティングにも関わっている。

楠 徹平（くすのき てっぺい）

1979年岡山県岡山市生まれ。2002年同志社大学経済学部卒業。ANAビジネスクリエイト株式会社（現：ANAビジネスソリューション株式会社）に入社。2015年8月にアスノシステム株式会社に入社、自社サービスの貸会議室検索サイト「会議室.COM」の運営責任者を務める。美唄市にて企業向けワーケーション（越境学習）をフックにした関係企業（人口）創出と地域活性化に取り組む。

松田 光由（まつだ みつよし）

1970年神奈川県横浜市生まれ。神奈川県立神奈川工業高校卒業。日本国際通信株式会社（現ソフトバンク）入社。通信インフラエンジニアとして、国際電話交換設備の設計構築、運用と海外通信キャリア間の国際ネットワーク接続に関する調整業務を担当。2023年 社内公募にてこれら経験をもとに、行政DXに貢献できると思い釧路市に着任現在に至る。

米田 真依（よねだ まい）

1988年香川県生まれ。京都大学経済学部卒業後、パナソニックでの海外グループ会社の経営分析担当、P&Gでのマーケティングリサーチャー職を経て、UX（ユーザーエクスペリエンス）デザイナーとしてグッドパッチに入社。2022年6月より北海道上川町とのプロジェクトを開始し、2022年10月より地域活性化起業者となり、2022年12月に上川町に移住。

* 4 自治体フロントヤード改革

行政と住民のコミュニケーションやサービス提供の仕組みを根本的に変革し、効率的で利便性の高い行政サービスを目指す取り組みで地域住民を対象に「書かせない」「待たせない」「迷わせない」「行かせない」行政サービスの実現を目指している。